

令和7年度 富山大学大学院人文社会芸術総合研究科
人文社会芸術総合専攻（修士課程）人文・芸術プログラム 芸術文化学系
一般入試・社会人入試・外国人留学生入試（2次）
入学試験問題

小論文

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この試験問題を開いてはいけません。
2. 問題用紙（本文）は4ページ、解答用紙は1枚、下書用紙は1枚あります。問題用紙および解答用紙に不備があった場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
3. 解答は、すべて解答用紙に記入してください。
4. 受験番号は、解答用紙の指定欄に算用数字で記入してください。
5. 試験終了後、問題用紙および下書用紙は、持ち帰ってください。

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

芸術が定義できそうにない理由は、「現代アート」や「現代音楽」と呼ばれるものを例にするとわかりやすいだろう。たとえば、最も有名な現代アートであるマルセル・デュシャンの『泉』は大量生産の小便器であるし、現代音楽の作曲家として有名なジョン・ケージの《四分三三秒》は四分三三秒のあいだ楽器が何も音を出さない作品である。何の知識もなくいきなりこうした作品に触れると、どこが芸術なのかと困惑するだろう。多くの人が抱く「芸術」のイメージから大きく外れているからだ。

なぜこんなことが起きるのか。原因の一つは芸術家の野心にある。芸術家はこれまでになかった作品を作ろうと試み、ときに既存の芸術にとらわれない作品を作ろうとする。誰かが「芸術はこういうものだ」と定義すると「それに当てはまらないが、これも芸術だ」という作品を作ってしまうのである。こうしたことが長く繰り返された結果、素人には理解できない作品も数多く作られている。芸術に詳しい人なら過去の作品を乗り越えた革新的な作品とわかるのだが、詳しくない人にはそもそも何がどう芸術なのかわからないのだ。

新しい芸術が現れる点を説明するために、よく「開かれた概念」という言葉が使われる。「芸術とはこういうものだ」という概念、あるいは、芸術であるための条件は、固定的ではなく今後も変化する可能性がある（開かれている）ということだ。昔の芸術概念からすれば『泉』や《四分三三秒》は芸術ではないが、誰かが革新的な作品を作ることによって芸術概念が広がり、

現在の芸術概念は『泉』や《四分三三秒》を含むようになっていく。芸術概念そのものが変化しているのである。

芸術概念が変化する可能性をよりよく理解するには、自然物と対比させるのがいいだろう。ここでは自然物の例として「毒キノコ」を取り上げたい。

スギヒラタケというキノコをご存じだろうか。このキノコは、東北や北陸で長く食べられており、缶詰にされた加工品もあったそうだ。しかし、二〇〇四年の秋、このキノコが原因と思われる死亡事故が多数報告され、現在では毒キノコとみなされるようになった。その毒性が長らく気づかれなかった理由はいくつかあるが、その一つとして中毒症状が現れるのが非常に遅いという点が指摘できる。一般的な毒キノコなら数時間から半日で症状が出るのに対し、スギヒラタケの中毒症状が出るのは一週間後である。そのため、中毒症状の原因の候補として上がりにくいのだ。

スギヒラタケが毒キノコだと判明したことには、二〇〇三年の感染症法の改正が関わっているという。改正された法律では急性脳症の患者が出ると行政に報告しなければならず、そのなかにスギヒラタケを食べたことが原因と思われる例が多数報告された。スギヒラタケと急性脳症の因果関係は、症例の報告が多く集まるまで気づかれていなかったのである。

この話を聞くと、「昔の人たちは間違っていた」と思うだろう。スギヒラタケが「毒キノコ」に分類されるものであることは、スギヒラタケの成分と人体の構造によって決まる。人間がスギヒラタケは毒だと思っていようと安全だと思っていようと、それとは独立に毒であることは決まっている。しかし、つい最近までそれを理解できていなかった。このように、自然物の特徴は人間の理解とは独立に決まっている。人間にできるのは、その特徴を正しく理解するか間違えるかである。

これに対し芸術はそうではない。前の時代には「芸術」に分類されないものが現代では「芸術」に分類されるようになったときに、前の時代の人々が間違っていたということにはならない。むしろ、前の時代と現代とでは芸術の概念が違っているということになる。

なぜなら、芸術は人間が生み出したものであり、何が芸術であるかは私たちの理解によって決まるからだ。自然物がどういものであるかは人間の理解とは独立に決まっているが、何が芸術であるかは人間の理解から独立に決まっていない。というのも、芸術を生み出すのも、何かを芸術と認めるのも、人間であるからだ。芸術家が前の世代にはない新しいものを作り出したとき、その作品によって「既存の芸術概念には当てはまらないが、言われてみればこれも芸術だ」という同意が人々のあいだでとれ、それによって芸術概念そのものが変化してしまうのである（もちろん、そう思わせるだけの傑作は多くない）。

以上のように、何が芸術であるかは変化しうるものである。未来では、現在の私たちにはまったく芸術とは思えないようなものが芸術とみなされているかもしれない。こうした点を踏まえると、過去・現在・未来の作品すべてを含められるように現在の私たちが芸術を定義することなどできそうにないと考えられるだろう。

源河 亨 『「美しい」とは何か 食からひもとく美学入門』（中公新書、二〇二二年）より

（文章中の傍点は筆者によるものである。また、原文の注釈や小見出しは省略した。）

問

筆者の考える芸術の定義について説明した後、あなたは芸術の定義についてどう考えるのか、各自の専門分野における具体例をあげながら、八〇〇字程度で述べなさい。